

「全国公立学校教頭会研究大会・秋田大会参加報告」

7月31日に秋田拠点センターアルヴェで開催された第4分科会「組織・運営に関する課題」に参加した。本分科会は、全国より238名が参加し、38のグループに分かれ3本の提言に基づき参加型の研究協議と情報交換が行われた。

□ 提言1 「豊かな人間性と創造性を育む学校をめざして」

～ 学校組織の活性化と教頭のあり方 ～ 北海道八雲町立八雲小

提言1では、学校の外部環境と内部環境についてSWOT分析を行い、自校の課題把握と分析結果を基にしたアクションプラン（問題解決策）の策定に向けた取組と、学校改善に向けた教頭のかかわり方を4段階〔ステップ1（管理職主体）→ステップ4（職員主体）〕で表し、ステップアップの方策について実践的検証を行った事例が報告された。助言者からは、SWOT分析においては弱点のみでなく強みも明確にすること、教頭のかかわりについては、適材適所を基本に校務分掌を生かしてのミドルリーダーの育成、及びベテラン教職員のモチベーションの確保の重要性が指摘された。

□ 提言2 「学校運営の活性化を図るための副校長としてのかかわり」

～ 職員への意図的な働きかけを通して ～ 岩手県宮古市立第一中

提言2では、学校経営目標を焦点化し、特に重視して目指すべき成果や取組について検証可能な数値目標を設定し達成に努めるといった岩手型コミュニティースクール構想『まなびフェスト』の実践事例が報告された。助言者からは、目標を絞ることはとても重要なこと、波及効果が必ずあるので絞ることを恐れないでほしい。また、数値目標の達成のみをねらいとせず、具体的な取組とその過程を重視すること、「学校で何を目指して、何に取り組むか」を明確に伝える中で、家庭との連携のあり方を模索していくことの必要性が話された。

□ 提言3 「学校組織・運営の活性化を図るための教頭のかかわり」

～ 全職員が参画できる学校評価のあり方 ～ 秋田県大仙市立花館小

提言3では、学校評価を足がかりとして、教職員が学校運営に参画し、学校の活性化に貢献できるようにするために、「学校評価シート」（重点目標→現状把握→具体目標→方策→取組状況→達成状況→自己評価→改善策）を活用した実践事例が報告された。助言者からは、PDCA→CAの2段階評価の取組はとても効果的であること、学校評価においては、評価項目の重点化・具体化・数値化が重要であり、評価結果について保護者・地域へ公表し、学校運営への参画意識を高める取組が重要であるとの指導があった。

3本の提言とも共通しているのは、学校組織の活性化の重要性である。「組織の活性化は、何のために必要なのか」それは、子どもたちのためであり、「組織の活性化」は、あくまで一つの手段に過ぎないことをしっかりと認識しておく必要がある。また、副校長・教頭は、「職員室の担任」と言われるが、危機管理意識を絶えず持つこと、情報収集に努めること、さらに、組織の活性化の視点で最も重要なのは、「認め・励まし・褒め・育てる」といった職員を育成する視点からのかかわり方が最も必要なことであるというまとめをいただいた。

〔加納岩小 清水 正俊〕